自動車道路と鉄道（幹線だが単線）とはほとんど接している
時々最新式のディーゼル機関車に出会うこれは急行貨物便

ジャワ東北部とマヅラ島の旅（インドネシアだより 1）

昨年9月から鉱床部菊池徹技官はインドネシア政府顧問として　同国バンドン地質調査所へ赴任しているが　このほど　次のような現地報告第一報が届いた

ソーダ灰工場 の建設地点を選定するための基礎的調査をしてほしい．　‥‥とシギット氏（Drs. Soetarjo SIGIT　インドネシア地質調査所長）　に頼まれたのは　駒谷君（石原産業KK勤務でコロンボプランによるインドネシア地質調査所派遣）　とわたしがインドネシアへ赴任（1960. 9. 16. ジャカルタ着）　して間もなくのころであった．

インドネシアに豊富にある石　灰　岩（$CaCO_3$）と塩（NaCl）を利用して　ソーダ灰（Na_2CO_3）やカ性ソーダ（NaOH）（ともにガラスや石けん・紙・パルプ・合成センイ等の製造に必要な原料　最近の同国における消費量はソーダ灰・カ性ソーダ合わせて 31,500t/年 ぐらいで　そのうち自国産は 3,000t/年 以下　他は輸入）を造ろうというのだ．　この考えは適当であって　すでにそのための専門の調査団が　日本から2班　ソ連から1班派遣され調査を実施中である．　これらの調査と合せてインドネシア政府の調査機関である地質調査所の意見をだすための仕事が　これまた　日本人であるわたしたちに依頼されたのである．

大型のトレーラーを引いた1台のランドローバ（英国製ジープ）がわたしたち2人のほかに　グイ君(Drs. GOEI Jjoe-how　インドネシア地質調査所の若い地質家）とワハディー君（Mr. WAHADI 同じく地質調査員）とマンカンダ君（Mr. SUKANDA ジープの運転手　通称 MANGKANDA）を乗せて　バンドンの地質調査所を出発したのは　1960年10月27日の朝だった．　そして1カ月ジャワ東北部からマヅラ島にかけて　走行距離約4.700 kmの自動車旅行となったのだ．

調査地域 を第1図　走破コースを第2図にその地域の石灰岩の分布と塩の産地を第3図に示す．以下写真によって　この**旅行の大要**をお伝えしよう

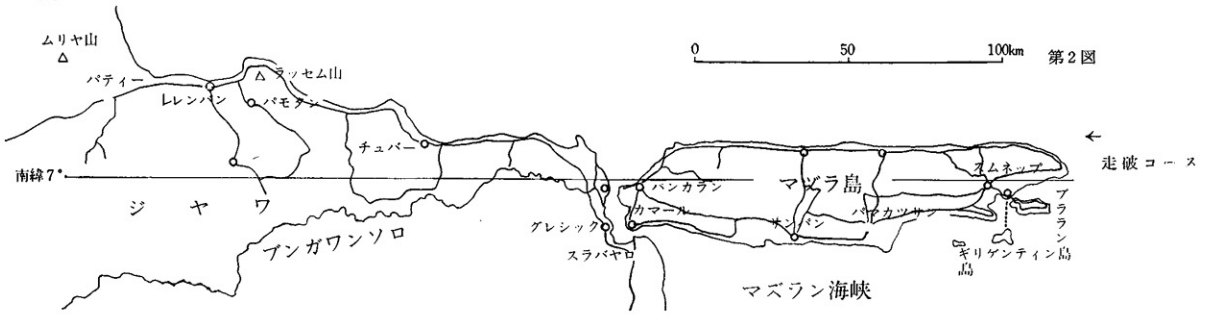
ところで　問題の調査結果はすでに必要方面へは提出〔T. KIKUCHI, I. KOMATANI and GOEI Jjoe-how : LIMESTONE AT NORTH-EAST JAVA AND MADURA (Djawatan Geologi, Bandung, Jan. 1961)〕されたが　石灰岩と塩は始めから予想していた通り　きわめて十分であって　この2つだけ考えると　世界最大の工場が建設可能のようであるが　残念なことに工業用水と輸送能力の問題で大きくひっかかってしまった．

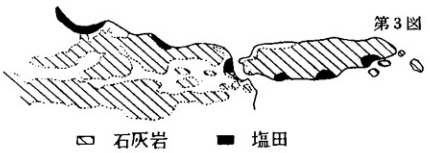
さきにのべた日本からの調査団も　ソ連の先生たちも水の問題で頭をなやまし　結局はブンガワン・ソロの河口付近がよいということのようである．　すなわち　年中流れている水を使用しようというわけだ．　ところがわたしたち3人の地質家は「なぜ　地下水を使用しない？」と発言し　ひとつ　わたしたちで地下水を出して見ようではないかということになった．　こんなことなら日本にいるとき　もっと地下水の地質を勉強しておけばよかったと思ったが　それもあとの祭　持前の心臓で次の精査すなわち　石灰岩の品位　鉱量の算定と地下水を出して見せるために　現在2カ月ぐらいの予定で駒谷さんと　グイ君は試錐機をたづさえて東部ジャワに行っている．　わたしは　目下他の仕事　すなわち　西部ジャワのマンガンを調べており　3月末に1度東部ジャワに行ってみるつもりです．

（1961年2月12日西部ジャワ　タシクマラヤのマンガン鉱山にて　　菊池徹技官）

第1図　　調査地域図

でも鉄道の大部分は蒸気機関車だ





走破地区の石灰岩と塩田の分布

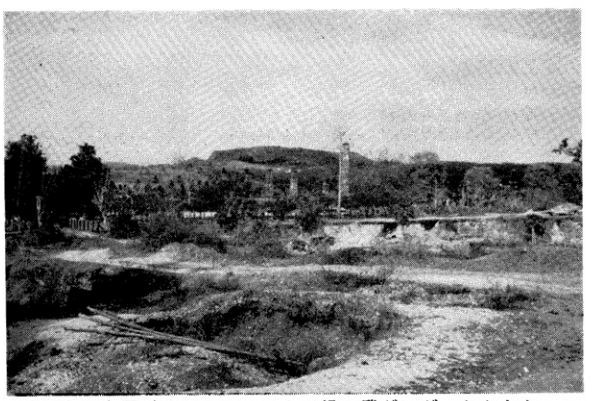
チュバンでは50年も前にオランダが建てた石灰工場が　今なおインドネシア人の手によって営業を続けている

レンバン付近の塩田　熱帯の太陽は塩の生産に好適のエネルギーを提供してくれるやや生産過剰で工業方面への利用を待っている

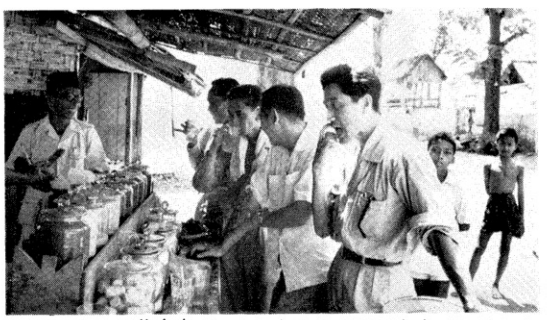
チュバンの石灰工場の庭に集められた燃料チーク材が高価ではあるが一番よいとのこと　石油の多い国で今なおこの状態だ（東部ジャワ）

パモタンは石灰岩の1つの生産地　有から石灰ガマの煙の絶えない所で　なかなかいい石灰岩を産する　台地一面石灰岩で写真のような掘り跡がある

大きい石灰岩地帯には地表水が少ないだが石灰岩の岩体の中に含水部のあることが多い泉の所に掘り込んだ井戸で村人たちは井戸端会議をやっている



戦時中日本軍が建てたセメント工場の残がいが　わたしたちの目にしみる後方台地は大理石質の石灰岩（パモタンにて）



いなかの飲食店で　わたしたちの口にあう「サテ」と呼ぶ焼鳥を食べながら遠い故国の夜を想い出す

地方にある役所日本の村役場か？　ここで一服する中央は菊池技官（東部ジャワ）

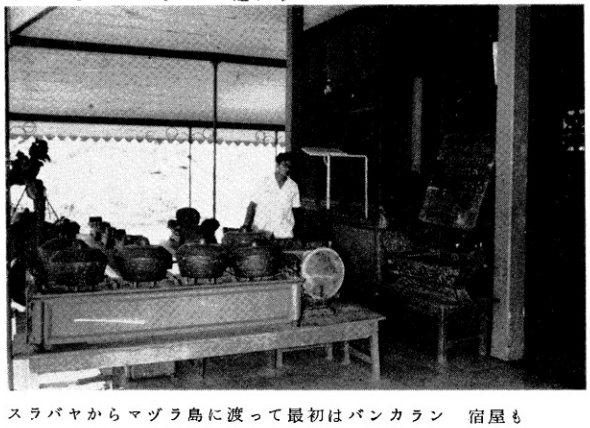
普通石灰岩には有孔虫（*Cycloclypeus annulatus*）を含んでいるその有孔虫のオバケみたいな形の石灰岩のとんがりがあった（西部マズラ）

子供たちに追われた牛（サピという）の一群がレールの上をのんびり歩るいていく暑いからだろうか牛もやせている（東部ジャワ）

きわめてやわらかい石灰石は切り出して建築石材に使われる（西部マズラ）

車は有名なブンガワンソロをこんな渡しでわたるブンガワンソロはさすがに立派で　乾季の終りなのにとうとうと水をたたえている（スラバヤ近くで）

牛の品質改良のため村長主催の競牛が行われるこれをキャラバン・サピといい　2頭のサピ（牛）が1組で乗手は1人でなかなか勇ましい（中部マズラ）



スラバヤからマヅラ島に渡って最初はバンカラン　宿屋もなく県庁（カフパタン）に泊めていただく［そこの古代楽器

プテラン島とマヅラ島とのあいだの海は静かに美しく暮れていく（東部マズラ）